資料1

清須市男女共同参画に関する市民意識調査の結果について

第2次プランの見直しにあたり、満 18 歳以上の市民を対象に、男女共同参画に対する意見や実態を把握し、市民意識調査を実施した。

■ 今回の調査（第２次清須市男女共同参画プラン中間見直し）の概要

調査対象者	令和8年7月1日現在、清須市に居住する満18歳以上の市民2,000人を無作為抽出
調査手法	郵送配布、郵送またはＷＥＢ回答
調査期間	令和8年7月23日～8月10日
回収率	35.8%　（回収数　716件）

■ 前回の調査（第２次清須市男女共同参画プラン）の概要

調査対象者	令和3年6月1日現在、清須市に居住する満20歳以上の市民2,000人を無作為抽出
調査手法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年7月2日～7月16日
回収率	39.5%　（回収数　789件）

【結果まとめ】

1　性別･年齢別の比較について

社会全体の平等感については、いずれの年代においても、「男性優遇」と感じている割合は女性が男性を大きく上回っていた。一方で、男性の 30 代以下では「女性優遇」と回答した割合が他の年代・性別区分に比べて突出して高くなった。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、いずれの区分も反対が賛成を大きく上回った。

2　共働き･片働きの比較について

家庭内の家事等の分担において、妻が担っている割合が高くなった。また、平日の家事・育児・介護にかける時間についてみると、約６割が平日「３時間以上」を家事・育児・介護に費やしていた。一方、男性は共働きの有無にかかわらず約６割が「関わっていない」または「１時間未満」（30 分未満・30 分～1 時間未満を含む）となった。

3　職業別の比較について

仕事を選ぶ際に重視する点で、女性は就業形態にかかわらず「勤務時間、勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」が重視していた。

管理職昇進へのイメージにおいても、女性は就業形態にかかわらず「責任が重くなる」が最多で、次いで「賃金が上がる」が続いた。

また、女性の職業観について、女性の会社員･公務員＋自営業･農漁業＋自由業では 70.3%が「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」と回答しており、女性のキャリア継続に前向きな意識が表れた。